

回想法研修

高齢者在宅サービスセンター 大宮ふれあいの家
〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内 1-16-38

助成事業の概要

実施目的 デイサービスなど介護事業所の職員を対象に心療回想士の資格取得、育成、心療回想法実施者に対する技術指導研修を目的とする

実施時期 平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月

研修内容 1 回想法技術指導研修

日時 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月の毎月 1 回 18:30～21:00 にて開催

内容 現場で心療回想法を実施している心療回想士を対象に心療回想法の進行状況の報告と講師による技術指導（スーパーバイス）研修

2 レミニシャン基礎研修

日時 平成 25 年 7 月頃の 2 日間に 10:00～16:00（両日）にて開催

内容 心療回想士（レミニシャン）としての基礎的な技術習得研修

3 パーミング研修

日時 平成 24 年 9 月頃に 10:00～16:00 にて開催

内容 回想法の技術の一つであるパーミング技法（声掛けを行いながらアロマオイルを使用したマッサージを行い、会話機能がやや低下してしまった

方へ働き掛けるコミュニケーション技術）習得研修

招聘講師 内閣総理大臣認証法人

日本回想法学会 会長 小林 幹児氏

事業の成果

今回の集合研修事業である回想法研修は、デイサービス・グループホームなど介護事業所の職員を対象に心療回想士の資格取得、育成、心療回想法実施者に対する技術指導研修を目的として実施され、研修参加者に対しては、レミニシャン基礎研修、パーミング研修にて心療回想法の基礎理論や応用理論、基礎技術や実施手順、評価方法や継続方法、パーミング技法等、心療回想士（レミニシャン）の資格習得と技術指導研修を受けることができた。

また習得した技術を用い、現場にて心療回想法を実践し、月 1 回の技術指導研修にて心療回想法の定期的な技術交流と技術講習の開催を行うとともに施設利用者向けの回想法評価スケールである R-ADL を在宅利用者向けの軽度者対象の SKR-ADL の作成を行った。

利用者に対しては、心療回想法による記憶回復訓練プログラムを受けることにより、10～15 歳頃に習得した潜在的な ADL 記憶を蘇らせ、ADL 機能の回復させることができています。

参加者からの感想としては、加齢とともに物忘れや認知症は進行するものだが、いかに遅らせるかに努めることが大事であると学んだ。

ポイントとしては3つ上げられ、1に認知症になった場合、記憶が消失する。予防に重点を置くことが必要。2に記憶を呼び覚ますには回想法が役に立ち、それは会話であり、その人の輝いていた時期を聴きだすことにより、大脳が活性化していく。3に回想法に重要なことは相手に興味を持つことであり、アイコンタクト、笑顔、大きなうなずきが大切であると学んだ。

利用者への回想法を実践した感想としては、心療回想法を習得したことにより、10～15歳頃に習得した潜在的なADL記憶を蘇らせ、ADL機能を回復させるという目的が明確であるため、認知症利用者への対応が行いやすくなった。記憶があいまいとなった利用者に対して個別回想法を行うことにより、記憶の回復に伴い、表情が明るくなり口数が増え、ADL機能の安定や意欲が戻るなどの効果が感じられた。

成果の広報、公表

成果の広報としては、当研修を受けた職員によって、参加者団体内部への回想法研修を行うだけでなく、認知症患者を抱える介護者支援団体や認知症患者に対する傾聴ボランティアを行う団体、近隣教会などの地域住民に対して、認知症の方への対応の仕方や回想法の基礎などの回想法講演会や回想法基礎講座を行った。

当団体としてはパンフレットに認知症予防としての回想法の記載やホームページへの掲載、参加団体としては広報通信への回想法記事の記載や回想法実施の様子を施設公開時に発表などの広報を行った。

成果の公表としては、杉並区高齢者施策課や在宅支援課などの行政に対して当研修の内容書類の提出や杉並区議員に対し、当研修の内容や成果の説明などの公表を行った。

また招聘講師である内閣総理大臣認証法人日本

回想療法学会会長小林幹児氏により、学会ホームページや広報通信、講師の執筆雑誌等に当研修の様子や内容の掲載などによる広報、公表が行われた。

今後の展開

来年度以降も当研修を継続していき、研修参加者に対しては、引き続き、心療回想法の基礎理論や応用理論、基礎技術や実施手順、評価方法や継続方法、パーミング技法等、心療回想士の資格習得と技術指導研修を行っていく。

利用者に対しては、心療回想法による記憶回復訓練プログラムを受けることにより、10～15歳頃に習得した潜在的なADL記憶を蘇らせ、ADL機能の回復を図っていく。

これにより在宅生活に支障をきたし、施設入所や専門病院入院に至ってしまうという従来型の不適切な認知症ケアの流れを未然に防止し、介護保険の目的である「在宅生活の継続」と「自立支援」に繋げることにより豊かな福祉社会の実現に寄与することが出来ると考える。

また回想法研修にのみ留まらず、傾聴ボランティア団体や地域住民や地域包括支援センターや社会福祉協議会や他介護事業所など、諸関係団体や地域との連携を図り、認知症予防・ケアの一端を担っていくことを目指していく。